

はしがき

本報告書は、当研究所の研究プロジェクト「中国の対外政策と諸外国の対中政策」の3年間の成果をとりまとめたものです。同プロジェクトは、外務省外交・安全保障調査研究事業（発展型総合事業）「自由で開かれた国際秩序の強靱性—米国、中国、欧州をめぐる情勢とそのインパクト」のサブ・プロジェクトのひとつとして実施されたものです。

中国が、国際社会の秩序の在りように影響を及ぼす最大の要素のひとつであることについて、もはや異論を挟む余地はないと思われます。とりわけ近年、「中国の夢」や「中華民族の偉大なる復興」を謳い、「一帯一路」構想を提起し、領土・領海をめぐる強硬な自己主張に象徴されるように、中国は国際社会における自らの存在感を誇示し、既存の国際秩序をより自国にとって都合の良いものに調整ないし改変する意思を明らかにしつつあります。

他方、中国の存在感が急速に増していくに伴い、国際社会の中国に対する認識や政策もまた大きく変容しつつあります。国際秩序は、中国の積極的な対外政策と、それに対する諸外国の反応の相互作用によって、今後さらに大きく変化していく可能性があります。

本プロジェクトは、こうした情勢を踏まえて、国内政治情勢から見た中国の対外政策の動向と、重要な諸外国（諸地域）の対中認識・政策の趨勢を的確に捉え、その相互作用の観点から、日本を取り巻く国際環境の今後を展望しようとするものです。ここに収められた各論文は、かかる課題に3年間にわたって取り組んだ研究の成果です。

ここに表明されている見解はすべて個人のものであり、当研究所の意見を代表するものではありません。この研究成果がわが国の外交実践に多く寄与することを心より期待します。本報告書に対する忌憚なきご意見、ご批判をいただければ幸いです。

最後に、本研究に積極的に取り組まれ、報告書の作成に尽力いただいた執筆者各位、ならびにその過程でご協力いただいた関係各位に対し改めて深甚なる謝意を表します。

令和2年3月

公益財団法人 日本国際問題研究所
理事長 佐々江 賢一郎